

解説と解答 家電・パソコン・自動車リサイクル 1

ワークシートの目的 家電製品やパソコン、自動車のリサイクルがどのようなシステムで進められ、消費者・行政・企業はそれぞれどのような役割を担っているかを認識させ、リサイクルへの参加意識を醸成します。

解説編

導入

子供たちにも関わりの深い家電製品やパソコンを例にあげ、いなくなったらどうするかを聞きます。

次いで、今日の授業が家電製品やパソコン・自動車がいなくなった時どうしたらよいかを学ぶ時間であることを告げ、ワークシートに入っていきます。

時間の目安(10分)

展開

次に、ワークシートを生徒に配ります。

家電、パソコン、自動車の順に、それぞれリサイクルを進めるための法律、対象製品、リサイクルするために消費者はどうしたらよいか、リサイクル費用は誰が負担するかを下の説明文から選ばせ記入させます。

時間の目安(10分)

指導のポイント

- 消費者としてどのようにリサイクルに参加すればよいかを明確にします。
- 自分がいらなくなっても、まだ使えるものであれば、リサイクルの前にリユースなどの方法があることも理解させます。

データ・関連資料

プラスチック図書館・リサイクルのしくみ、家電のリサイクル、パソコンのリサイクル、自動車のリサイクル

発表

書き終わったら、順にそれぞれのリサイクルシステムを発表させます。

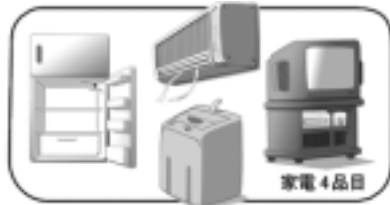
家電 : どこに持って行けばよいかを明確にします。

パソコン : リサイクルマークがあるものとそうでないもののリサイクルの仕方を分かりやすく説明します。

自動車 : 平成16年末までに販売された自動車のリサイクル料金の払い方を分かりやすく説明します。

時間の目安(30分)

(1)家電



1)法律 正解 2

2)対象 正解 B

家電製品には多くの種類があるが、4品目が家電製品全体の年間廃棄量の80%をしめる(約60万トン)こと、冷蔵庫やエアコンはフロン回収が必要なことなどから、法律でリサイクルを促進することが必要と考え、4品目が指定された。

3)リサイクル参加の方法 正解 う

家電製品を販売店に持って行き、家電リサイクル券を買ってそれを製品に貼ると、販売店が引き取ってくれる。

販売店で引き取ってもらえないときは、郵便局からリサイクル料金を振り込んで手続きをするなどの方法もある。

4)費用負担 正解 イ

(2)パソコン



1)法律 正解 1

2)対象 正解 C

3)リサイクル参加の方法 正解 あ

PCリサイクルマークの付いたものは、メーカーに連絡し、郵便局から指定場所へ送る。

リサイクルマークの付いていないものは、メーカーに連絡し、リサイクル料金を払って郵便局から送る。自作パソコンは、有限責任中間法人 パソコン3R推進センター(※)に連絡し、料金を払ってリサイクルを依頼する。

4)費用負担 正解 ハ

※パソコン3R推進センター : <http://www.pc3r.jp/index.html>

(3)自動車



1)法律 正解 3

2)対象 正解 A

3)リサイクル参加の方法 正解 い

4)費用負担 正解 ロ

2004年までに販売された車の場合は、車検実施時に料金を払う。次回の車検実施を待たずに廃棄する場合は、引き取り依頼時点で支払う。